

学校名：宮古市立鎌ヶ崎小学校

校長名：笹川 正

所在地：岩手県宮古市熊野町6番33号

電話番号：0193-62-6043

I 実践校の概要

1 学校・地域の特徴及び実態

本校は、明治8年に創立した宮古市内でも有数の伝統校であり、全国でも有名な陸中海岸国立公園の「浄土ヶ浜」をはじめ、夏の観光シーズンには、観光客で活気を呈する場所に位置している。

保護者は、授業参観への参加率が高い等、学校教育への関心が高く、PTA活動も積極的で、学校との協力体制をしっかりと築いている。

本校では、学校教育目標である「明るく思いやりのある子」「進んで学ぶ子」「健康でたくましい子」を具現化するため、学校経営の重点に「豊かな心の育成」「学力向上と自主的な学習態度の育成」「生徒指導の充実」「健康の保持増進と体力・運動能力の向上」等をすえ、毎日の教育活動を積み重ねている。

また、「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」実践研究校として、文部科学省より平成21・22年度の2年間の指定も受け、英語活動等国際理解活動の取組にも力を入れている。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学級	計	
学級数	2	1	2	2	1	2	1	11	
児童数	男	21	14	22	27	12	26	2	124
	女	15	16	23	24	17	22	0	117
	計	36	30	45	51	29	48	2	241

教職員数 20名

体育の授業の状況

実施領域	実施 学年	児童数			外部指 導者数
		男	女	計	
器械運動 (マット運動)	3年 (担任数 2)	22	23	45	1

II 活用事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

体育（器械運動）実技アシスタントとして宮古体操ジュニアより外部指導者をお迎えし、器械運動（マット運動）の領域において、専門的で適切な指導、助言等をしていただいたことにより、下記のとおり、児童の変容や担当教員の指導力の向上が図られた。

【児童】

マット運動の学習に対する運動意欲の高まりや技能の向上がみられるとともに、体育の授業はもちろん、体育以外でも積極的に運動するようになった。

【教員】

単元の指導が進むにつれて、3年担当教員による全体指導や授業展開が効果的・効率的なものになるとともに、個に応じたきめ細かな指導も積み重ねられるようになった。

1 研究テーマ等

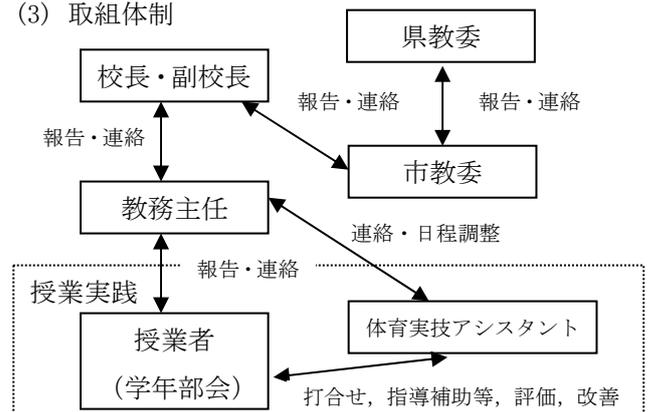
(1) 研究テーマ

体育実技アシスタント（地域スポーツ人材）との連携による小学校体育科指導の在り方

(2) 研究テーマ設定のねらい

地域のスポーツ人材を公立小学校体育実技アシスタントとして派遣し、担当教員との連携による小学校体育科指導の模範演技や専門的な指導、助言、補助等の実施を通して、児童の運動意欲を高めるとともに、体力の向上を図ることをねらいとして、本研究テーマを設定した。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成 22 年 度	1 体育実技アシスタントと事前打ち合わせ … 2回(6月, 9月)
	2 マット運動指導(7時間…9月)
	(1) 基本的な回転技(前転を中心に) … 1時間
	(2) 基本的な回転技(後転を中心に) … 1時間
	(3) 基本的な回転技(発展技にも触れながら) … 1時間
	(4) 基本的な倒立技(発展技にも触れながら) … 1時間
	(5) 技の繰り返しや組み合わせの練習 … 1時間
	(6) 発表会 … 2時間
	3 体育実技アシスタントと振り返り … 1回(10月)

2 活動及び活用事例

(1) 器械運動(マット運動)

① 目的

ア 児童のマット運動に対する関心・意欲・態度及び技能の向上

- ・基本的な回転技・倒立技等を習得させる。
- ・練習や発表等の中で「できる」「わかる」体験を積み重ね、進んで運動に取り組もうとする意欲・態度を養う。
- ・ペアやグループ活動を位置付け、児童相互のかかわり合いを深めさせる。

イ 担当教員の指導力の向上

- ・技のポイントを理解する。
- ・授業展開や学習形態等、効果的な指導法を身に付ける。
- ・児童一人一人へのかかわりを深め、活動の達成状況等をしっかりと見取る。

② 具体的な指導方法

ア 事前打ち合わせ

児童の実態やマット運動の経験と予定時数について指導者に伝えるとともに、7単位時間の最終目標について共通理解

を図った。

- ・担当教員が授業を進める中で、扱う技の模範演技やポイントの説明、児童の補助等を体育実技アシスタントにも行ってもらおう。
- ・学習の成果の確認の場として、発表会を実施する。
また、体育実技アシスタントの外部指導者からのアドバイスを参考にした。
- ・3年生は、今後のマット運動が好きになるか嫌いになるか大切な時期だと思われるので、楽しい授業ができるように心がけたい。
- ・高学年になって苦労しないような基礎力をつけさせたい。

イ 指導の実際

【1時間目】

単元を通しての学習課題や活動の進め方、学習する技の紹介を行い、マット運動のポイントとなる感覚づくりと前転の練習を行った。

- ・立位姿勢からの前屈

柔軟性の向上, 逆さ感覚の体感

- ・腕や足をマットに付けない横回り

体の「しめ」の感覚





- ・後半部分の立ち上がり練習

体全体を使って、手で床を押ししないで、立つときに脚を開かないで、かかとをおしりにもってくるようにすると勢いがつく

- ・前転から脚を閉じて立ち上がる練習

きれいな動き、動きのしまり



【2時間目】

- ・前転から脚を閉じて立ち上がる練習

マット上で体が接する順番があること

※両手-頭の後ろ-背中-腰

※着いてはいけない部分（頭のとっぺん）があること

- ・後転練習

グループ別練習

○初めて経験する動きのため、自分の体をどのように動かしたらよいか分からない様子が伺えた。

○2時間目の反省点

- ・準備運動が長い。
- ・待ち時間が長い。



【3時間目】

ゆりかごや前転を盛り込んだ効率的な準備運動に改善。また、マットの数を考慮して練習の場を増やし、待ち時間を短縮。

- ・技のつながりの練習（前転→後転）

脚交差，1/2ひねりジャンプ

- ・開脚前転，開脚後転の練習

○課題

- ・腰が上がる前に足が開き始める。

【4時間目】

- ・側方倒立回転の練習

補助→高い腰の位置での回転感覚

振り上げる足を強く→側転の勢い

- ・大きな動作の前転

◎児童の変容

- ・指示がなくても自分から進んで練習に取り組むようになった。

【5時間目】

- ・技の繰り返しや組み合わせの練習

3つの技（2回までなら同じを繰り返してもよし）

※前転，開脚前転，開脚後転，側方倒立回転のいずれかが盛り込まれていること

3つ目の技は折り返して

※フィニッシュと考え、メリハリを

◎児童の変容

・マナーや約束事の確立

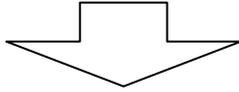
スタートの合図
フィニッシュのポーズ

・子ども同士のかかわり合い

友達の演技をきちんと見る
友達へのアドバイス
拍手、ハイタッチ

・目的を持っての練習

複数の技の中から選択
自分から進んで練習
繰り返し何度も練習



◎授業展開の向上

- ・中心活動にたっぷり時間をかけられるようになった。
- ・体育実技アシスタントの説明や模範演技の場面が少なくなり、個別の補助や助言の場面が多くなった。



【6・7時間目】

3つの技（2回までなら同じを繰り返してもよし）に加えて、演技の最初と最後に手を挙げる姿勢も技として示し、合計5つの技として発表するよう確認の後発表会を行う。

・発表会

◎友達の演技を見ながら自分の順番を待っている姿から、子どもたちの緊張感が伝わってきた。

張感が伝わってきた。

◎子どもたちは、「私は〇〇をやりま
す。」と大きな声で発表して演技を
実施した。

ウ 振り返り

体育実技アシスタントの外部指導者よ
り、

- ・担当教員の授業計画により、順調に指導を進めることができた。
- ・3年生で覚えてほしい感覚のベースをしっかりと身に付けることができた。

という評価をいただいた。

③ 成果・課題

ア 成果

本事業の目的としていた子どもたちのマット運動の学習に対する関心・意欲・態度及び技能の向上、及び担当教員の指導力の向上が着実に図られたことに加え、担当教員や体育実技アシスタント及び子ども同士の相互関係が一層深まったこと。

イ 課題

本事業の成果を学校全体でも共有していくとともに、今後の体育科指導に生かしていくこと。

3 今後の展望

地域人材の発掘により、本取組の成果を他の運動領域にも広げていきたい。